

北京オリンピックと中国の変化  
中国吉林省東北師範大学派遣者 竹中 和彦

オリンピックが始まりました。

中国人学生の宿舎にはテレビが備え付けられていないので、学生は大食堂等でオリンピックを観戦しています。私の部屋にはテレビがあるのですが、8日の開幕式は大勢で見たほうが楽しいだろうと、午後8時前に食堂に行きました。

開幕式では国歌が流れると誰からともなく起立をし始め、花火が上がる度に歓声と拍手。母国で開催されることに誇らしい気持ちをもっているのでしょう。

開幕式の数日前に北京を見てきました。

オリンピックを控えて駅前等では音楽が流れ、道路沿いには「首都治安志願者」と書かれたシャツを着た年配者が大勢います。各国の取材陣も見かけます。また市内のバスは新しいものが多く、製造日を見ると2008年6月となっていました。

約10年前に中国を1カ月程度回ったことがあるのですが、その頃と比べると北京は、いえ、中国は大きく変わりました。

まず感じるのは人々の変化です。

その頃の商店やレストラン従業員の接客は、サービスをするのではなく逆に店側が客に対し、やってあげている（売ってあげている、作ってあげている）といった感覚でした。今でも一部の店舗等を除き日本と同じ水準のサービスを求めることは難しいのですが、少なくとも不快になることはあまりありません。

今回北京では、通勤時間帯は別として自転車集団を見ませんでした。また北京に限らず、以前は歩いているとよく人とぶつかったものですが、今はぶつかることもほとんどありませんし、街では痰をはく人もほとんど見かけません。女性は日傘をさす人も増え、またおしゃれになりました。

一方、以前のように商売人に圧倒されることもなくなり、個々の勢い（パワー）がなくなった気がします。客引きにしても以前のような強引さがありません。

インフラ整備、高層ビルの建設等、ハードな面の変化はもちろんですが、ソフト面の変化が大きいように感じます。例えば公共交通機関についていえば、長距離の移動がずいぶん快適になりました。列車では車掌が棚の荷が落ちないことを点検し、ゴミの回収に来ます。全席禁煙で列車の連結部分でのみ喫煙可能・・・以前は車内に煙が充満し不快でした。また、車窓からビールの空き瓶等を投げ捨てる人たちさえもいました。

今回の移動で私が気になったのは携帯電話が普及し、車内での携帯音がうるさいこと。もっとも、もともと話し声が大きいので着信音や携帯を使用した会話について、乗客はそれほど気にならないのかもしれない。

少し前の長春でのこと。食べ終わったお菓子の袋を路上に捨てた息子を父親が注意するという光景を目にしました。まだまだいたるところでポイ捨てを見かけますが、人々のマナーは確実に変わりつつあります。

北京はかなり暑く、駅に向かう間、屋外競技に出場する選手たちのことを思わずにはられませんでした。

プロですから勝つことに徹するのは当然なのですが、勝ち負けに関係なくこの数年間一生懸命にやってきた全てが出せるよう頑張ってもらいたいと思います。加油！

(2008年8月10日)